

## 平成27年度南部地域政策総合会議計画推進評価部会 会議録 概要

### 1 開催日時

平成27年10月16日（金）午前10時30分から午前11時50分

### 2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 中会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員 5名出席（3名欠席）

委員 小林委員（副部会長） 橋本委員 町田委員  
専門委員 石田部会長 森本委員

#### (2) 県関係

小泉局長 森副局長 新居津波減災部長 川村経営企画部長  
塩見保健福祉環境部長 井上産業交流部長 東村県土整備部長  
久米政策調査幹 他

#### (3) 市町関係

那賀町：葛木企画情報課長 牟岐町：仁田総務課長  
美波町：磯野総務企画課長 海陽町：戎谷まち・みらい課長

### 4 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

平成26年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について

#### (3) 閉会

### 5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会委員名簿
- ・ 平成27年度徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会配席図
- ・ 資料 1 平成26年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価（案）
- ・ 資料 2 南部圏域課題解決プラン取り組み状況～ここまで進んだ「南部圏域振興計画」～
- ・ 資料 3 南部圏域振興計画～「四国の右下」創生計画～の概要
- ・ 資料 4 南部圏域課題解決プラン（平成27年9月）

### <発言概要>

（事務局）

本日は委員8名のうち5名にご出席いただいております。当評価部会設置要領第5条第2号の規程によりまして、部会に属する委員の総数の半数以上の出席がありましたので会議は成立とさせていただきます。

（局長）

（あいさつ）

(事務局)

議事につきましては、徳島県南部地域政策総合会議設置要領第5条第1号に基づきまして、部会長に進行していただくこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

(部会長)

それでは、議事を進行して参ります。本日の議題の平成26年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価(案)につきましては、事務局から説明をお願いいたします。

(政策調査幹)

(資料1により説明)

(部会長)

それでは、ただいま説明のありました平成26年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価(案)についての御意見、御質問、さらには南部圏域振興計画への御提言も含めまして、幅広い御意見等をいただければと思います。どなたからでも結構ですので、よろしくお願いいたします

(A委員)

このところ空き家とか移住っていうのが、県全体でも委員会行っても、後ろだったやつがいきなりトップに躍り出てきて、びっくりしてるんですけどね、この頃。あまりのスピードに、躍り出てくる早さに。サテライトオフィスに目をとられていたので、結局、一般の方の移住とか空き家とかそういうのが、すごい遅れてしまった感があります。

ここのC評価、23件というのは、もうちょっと私したんちゃうかなあとと思うんですけど、これ余所の市町も含めてやと思うんですけど、ほんともうちょっと、どんどんやっていただかないといかんなと思います。C評価、もっと上げてあげたいんですけど、無理かなと思ってます。他の所はもう、このとおりの評価でいいかなと思います。

(B委員)

Aさんと同じ意見で、うちの町内にサテライトの方と、農業の方、若いご夫婦が来てくれてます。農業の若いご夫婦の人が、ご主人が東京で仕事してて、嫁一人田舎に一人でおります。お酒の好きな高知県出身の方で、私の住まいの横で畑を借りているんですけど、来るときにいろいろ由岐とか向こうの方と迷ったらしいんですけど、サポートしてくれるところがきちんとしているほど行きやすいというようなことを言っていましたし、このあいだAさんが、電話をくれましたよね、加茂谷に空き家が無いかって。美波町だけとかじゃなくて、加茂谷だけじゃなくて県南みんなでどこが空いているのかというのが、うまく見えるようなシステムがあればいいかなと。加茂谷に来て人とも、美波町に来ている同士でも交流ができるしいいなと思いました。

このC評価になってますけど仕上がっていない、いろいろ努力はしている

んですけど実ったのがCってということなので、この移住交流支援センターの紹介の仕方とかもっと工夫したらすぐAになるのではないかと。

プロに聞きますけど、加茂谷に来ている人に聞きましたらやる気満々で、友達にも紹介したい、その人は山に来ているんだけど、友達は海の方にいきたいとかいう人もあったんで、もっと情報提携が出来たらなと素人ながらに思いまして。隣に来た農業の方もサテライトの方も、非常にいい友達になってやっておりますので、A先生よろしく願います。

このCはみんなが努力したら上がると思います。すごい努力してくれているのにCはもったいないと思いました。

(C委員)

3番の「体験型観光の振興」で、プラン17の成果指標の一番目の受入れ宿泊数は目標を達成してて、二番目の受入れ農林漁家数が達成していないのは、原因は何でしょうか。圏域の農林水産業に携わっている人は減っているから、ただ単純に減っているのか。これが一つ。

あと、成果指標が無いっていうのが7つありますが、これ見よったらみんなアイデアが必要な項目ばかりでした。アイデアがいろいろ出せるような仕組み、吸い上げられるような仕組みがまだ出来ていないんじゃないかと思えます。それさえ出来れば、コミュニティビジネスとかもそうかなと思えます。一番大事なことやと思うんです。頭を働かせてないんじゃないかと。目の前のことだけ精一杯やってるんじゃないかと。

(部会長)

C委員さんがおっしゃったのは、宿泊数としてはクリアしているんだけど、受入れ漁家数が足りないというのは、こんだけたくさん受け入れることは出来ているけど、もっと用意できないのかなあというところだと思います。その辺の感触といいますか、どうでしょうか。

(産業交流部長)

まず、減った理由といいますか達成できなかった理由としましては、やはり高齢化などいろいろな理由により、続けられなくなった方がいて減った。受入れ漁家数を増やすために研修会とか、受入れを志向する漁家を回ったりして掘り起こしを行い、新規では9戸ぐらい増えたんですが、減ったのが4戸だったり。なんとか、若干でも増えているんですが、140戸までは達成は難しかった。

宿泊数はクリア出来た、これについては民泊に加えて、民宿を活用したりホテルを活用しまして、大口の修学旅行生を受け入れまして、目標を上回る実績を達成しています。

(C委員)

今後は、東京オリンピックに備えて民泊を増やすという話もあるんで、農林水産業以外の商売をしている家も、一般の会社員の方にも広げて行く。

(A委員)

民泊するときに、移住者の方とかうちの町だとすぐに民宿のことをおっしゃって、しょっちゅう保健所と消防に走っているんですけど、ものすごい旅館業法がネックになってて難しいんですよ。それを取っ払ってもらいたいなあというのが、今すごくあって、県の方とかが評価を上げようと思って行かれても、その旅館業法をクリアするための設備とか、ものすごい法律的な難しいところがあるので、それをよく勉強というか簡単にできるように変えていただきたいと思います。特区とかいう感じで。

(C委員)

A委員さんの意見も分かるんですけど、前に営業許可を取るときに保健所の方に聞いたら、私たちは嫌らしいことを言うのと違うんだと、ちゃんと営業してほしいから言うのとだけで。相談に乗ってはくれると思うんですが、話の持って行きようだと思うんです。

(産業交流部長)

特区という話がありましたけど、農林漁家の宿泊して体験をさせるという、普通の旅館業法の要件を緩和したような形の登録制度はあるんで、登録制度に沿った受入れ推進はしています。

(部会長)

個別具体的にお伝えしますと、国全体として民泊という形ですでに緩和してやっているんですけど、条例をつくってもうちちょっとこう、特区みたいな動きをニュースで見たような気もするんで、たぶん、もうひとつ広げていこうとする時にいろいろあるのかもしれない。特区みたいな形をつくると、それだけで、特区でやってるんだみたいな発信ができたり。たぶん現場でいろんなことがあるんだと思うので、後でやっていただければと思います。

あと、一般の方、農林漁家だけでなく、というC委員さんからの御意見。外国人で普通の人がホームステイみたいな感じかもしれないんですけど、もしかしたら、日本人でないところまで広げたらニーズがあるのかもしれない、日本人の生活の中に、ってところまで広げると農林漁家だけでなく。そうしたらインバウンドを増やすきっかけになるかもしれない。

(B委員)

プラン18の外国人の団体の受入数が3団体に対して、4団体の受入れで二重丸となっていますが、自分の周りでは、武蔵野大学の学生さんの受入れがありました。外国の方はまだ見たことがないんです。これは、どちらに来られたんでしょうか。

(産業交流部長)

これは実績としましては、台湾とか、修学旅行という形で。

(B委員)

どちらに。

(A委員)

美波町に。多いやん，外国人の人。

(B 委員)

漁業の体験に来られるんですか。

(A 委員)

そうでないけど。生活体験ですね。

(B 委員)

それこそ，どこに泊まるんですか。

(A 委員)

民宿ですね。

(B 委員)

見たことが無かったのに，二重丸だったので質問しました。

(産業交流部長)

目標設定が低いというところもあるんですけど，団体数としては目標3団体に対して，4団体できたということで。今後はインバウンド等の観点から，積極的に取り組んで行かなければならない部分なので，引き続き色々と検討して進めて参りたい。

(局長)

香港のアジアテレビという番組の撮影クルーが7月2日に来てます。それは，那賀町の鷺の里と太龍寺とかあの辺り取材して帰って，PRしてくれたり。そういうテレビクルーも来たり，さっき説明のあった台湾の高級中学校，何年生か分かりませんが，修学旅行生を受け入れてたりしています。

(A 委員)

大阪や京都がもう，日本の人が宿泊できないらしいですね。外国の方が押さえているようで。ビジネスホテルも取れないって言ってますけど，徳島県は取れませんか。取れますよね。

(部会長)

出張で行こうと思ったら大変ですね，今。

(C 委員)

徳島市内は，ホテルたくさんできてるじゃないですか，増設したり。だから，稼働率はええんじゃないですか市内は。県南がしんどいだけで。

(部会長)

がんばりましょう。

あと回答もう一つ，C委員からあったアイデアという成果指標，数値目標に出来ないものについて，事務局から。答えにくいかもしれないですけど。

もっとアイデアを出せば、数値を入れられるのではというお話しでしょうか。

(C 委員)

例えばプラン 2 2 の四国霊場八十八箇所交流促進とかいうのは、こういう話し合いの場があったんだろうかと思うんですけど。私、なんでも参加するので声かかりやすいんですけど覚えが無いなど。動きがあったんかなと。

(B 委員)

うちの辺りは遍路道の会というのがあって、非常に交流しています。一部だけで公に出来てはないんですね。

元に戻りますけど、今、外国の方が大勢おいでてますよね。私も英語をしゃべれないんですけど、勝浦のローソンで戸を開けたら外国人のご夫婦と一緒にになったんで、とりあえずハローと言ってみまして、続きがでてこなくてエンジョイって声をかけたらエンジョイって返してくれて、最後グッバイっていったら笑顔で応えてくれて。

交流とかでも、皆が受入れに必要な英語を学んで交流したらいいと思います。

(A 委員)

何に努力するか、ポイントを絞れないですかね。

(B 委員)

余白ってというのがおかしいということでしょう。

(局長)

どういう項目を成果指標にしたら、客観的に計れるかが難しいところ。

(C 委員)

23 年度からあったんですか。

(政策調査幹)

項目としてありました。

(部会長)

どんな成果指標を入れるか、どこに力を入れるか、具体的なアクションに繋がってきたりすることがあるので。成果指標をぱっと思いつかない、考えつけないものこそ、そういうのを検討する場があれば、じゃあ何をやろうというような話にもなったりして。

(A 委員)

廃校なんか結構使われてます。これ入れといたら評価が A になったのになあという気がしますね。78 ページ。学校、皆使ってます。超 A になれる。

廃校の数書いて、使用された実績を入れて。

(B 委員)

プラン 35 の新エネルギーも。空白ばかり。

(C 委員)

今度、新しい四国電力から買わんでええとかいうのが来年あたり。この情報もあまり流れていこないし。

(部会長)

今後、例えば成果指標を決めにくいなっていうのを一度検討する場面、時間を設けてみるなり、もしくは、当初入れてなかったけれども途中で入れてもいいのではないか。4年間の間に状況が変わったりしますから。そういう場合には、随時変更できるようなやり方を今後はやっていけたらということ。

(政策調査幹)

先ほどより御意見いろいろいただいておりますが、資料の3、この度策定しました計画の抜粋版なんですけど、この5ページをお開きいただきますと、自然エネルギーの利活用、下の段になりますが、木質バイオマス発電の完成を目指すとかでありますとか、こういったことで取り込める分については、新しい計画に反映させていただいております。

この新しい計画も年2回、毎年見直しをかけておりますので、その時に今日頂いた御意見なども反映させて、これをさらにブラッシュアップした形でご審議いただきたいと思っております。その段階で、新しい指標が入れられそうとか、先ほどいただいたお遍路のお話であるとか、新しい視点で指標を入れられそうであれば、事務局案として挙げさせていただきましますし、またこんながあるんじゃないとか、御提言をいただければと考えております。

(D 委員)

7ページのプラン39なんですけど、新規就農者数、これは農業なんです、林業って分かりますか。現在の林業の従事者数も分かれば。

それと、労働力確保サポートバンクの登録者数は二重丸になってるんですけど、農業において、どの辺りの方の登録が多いんでしょうか。例えば、阿南とか鷲敷とか、地域で言えばどの辺が多いのでしょうか。この前ゆずの収穫の技術向上をやってましたけど、どの辺でサポートが欲しい人と、する人が多いのか、分かれば。

それと資料3に、県産材の生産量が25年度で13.6万 $m^3$ 、30年度で20万 $m^3$ ってなってるんですけど、これは県南、それとも全県での $m^3$ 数でしょうか。

(産業交流部長)

資料3の3ページの主要業績指標に記載している県産材の生産量は、南部圏域です。

(D 委員)

2、3年前に那賀町での生産量の目標について、那賀町は32年度で20

万㎡だったと思ってたんですが、その辺の㎡はどのようになっているのでしょうか。

それと新規で林業をやりたいって人が入ってくるんですけど、なぜ定着しないのか、そこを考えないと入っては出、入っては出となり、年いった人は辞めていくっていう風な形になっていくので。たぶん3点セットが入れればそれに関しての人数が増えると思うんですが、林業は3点セットだけじゃなくて、これから主伐っていうことが出てくるので、その主伐の後の育林みたいな人を、どういう風にして呼び込むのか。

それとなぜ、3年、緑の雇用が済んだら、そこで辞めて他に移るのか。そここのところをちゃんと考えないと、これから主伐でものすごく切っていくのに、あとの育林ができないようになりはしないか危惧している。そのへんを、お答えいただければと思います。

それと、この間もちょっとお話し聞いたんですけど、ポット苗ということで考案してくださっているんですけど、そこにもいろいろ問題がございますので、現場の人とか知恵を持っている人に、ポット苗がいいですよと勧めるだけでなく、どんなマイナスがあるか、これを定着させるにはどういう風にしたらいいか、お話しをしていただきたいです。一方的にこちらにしてくださいって言うんでなくて。これなかなか難しいですよっていう課題もありますので、ここの課題をどうクリアしたら普及になるかも含めて、お伺いしたい。

(産業交流部那賀担当次長)

まず林業就労者の数でございますけど、平成22年国勢調査によるものでございます。県南地域、阿南から海陽までを含めて、326名ということになっております。県全体としましては837名です。平成27年現時点では若干、林業関係就労者につきましては増加傾向がございますので、県としましても増加させる施策を展開してまいりたいと思っております。

それからもう一つ、那賀町の生産目標であります20万㎡は、那賀町が立てております林業マスタープランの数値目標と思っておりますが、これにつきましては委員のおっしゃるとおり平成32年度までの計画となっております。今現在、我々の方で県南地域の生産目標としまして20万㎡。これは平成30年度を目標として、計画を立てさせていただいております。これにつきましては当然ながら、那賀町だけでなく、阿南市、美波管内のものも含めた形となっております。

数値、取り組み年度の差違がございますが、これに関しましては、那賀町のマスタープランを当然ながら県と町が連携しながらこの目標に向かってやっていく。そして次期の新次元林業プロジェクト、県全体で60万㎡という大きな目標を掲げておりますが、それに向けて政策を展開して参りたいと考えております。

それから、林業関係の担い手がどうして定着しないのかですが、理由が分かれば我々もそれに対しての手立てを打つことが出来ると思うのですが、委員がおっしゃったように、いったん就労しましても離れるというケースがあるのは聞いております。これに関しまして、特に那賀町におきましては、新規の若い林業従事者、「山武者」という団体がございます。若い従事者が、自ら自分たちの仲間、要は林業する人を探すといいですか、そういう活動を



今年度もすると聞いております。そういうことを続けまして、出来るだけ定着率が上がるような形で今後とも県として取り組みたいと思います。

それからポット苗のお話しがございました。数年前からポット苗の導入を県として進めております。まだ、こういう新しい技術的なもの、苗木に関しましては皆様にもっと県の方から周知する必要があるかと思っております。御意見のありました様々な機会を活用しまして、ポット苗を使っただけのよう、研修なりそういうことをぜひ展開してまいりたいと考えております。その段階で、D委員様にもいろいろと御協力いただければと思います。

(産業交流部農業支援担当次長)

労働力確保サポートバンクの登録者数に関しまして御質問をいただきました。この労働力確保サポートシステムの構築に向けてということなんですけど、平成23年7月にJA阿南の農作業お助けセンター無料職業紹介所事業協議会というのをつくりまして、同年8月にお助けセンター無料職業紹介所を開設しているところでございます。その登録者数が318名となっておりますが、細かい地域別のリストは持っておりませんがどうしても阿南市内が一番多いと聞いております。那賀町の方へ、雇用契約により農作業に阿南市内の方から通っていただく。あるいは現行では、JAの方がこの事業の事務局を持っているんですけど、バスを仕立ててJAアグリ阿南に集合していただいて、そこから那賀町の方へお送りしています。そうしたことから、バンクの登録者数は阿南市内が多いと思います。

続いて、どんな作業が多いかという御質問ですが、昨年実績を見てみますと、去年は34件雇用契約が結ばれたのですが、その内訳といたしましては、水稲関係が15件で一番多かったです。ですから、どうしても阿南市内の水稲が多いということになっております。あと柿の定植とか除草が9件、ゆずの収穫、箱詰め、搾汁、剪定が7件、その他が3件となつてまして、那賀町の方にもケイトウとかゆずとか産地がありますが、そちらの方にもニーズがあるということで、実際に雇用契約が結ばれているところでございます。

ちょうど昨日、ゆずのバンク登録者を対象とした研修会を開催しまして、NHKさんの取材をいただきまして、6時10分からのニュースで放送されました。昨日は10名の方に参加いただいてゆずの剪定作業の研修を受けていただきました。そうすることによって産地の維持強化のために必要な労働力不足というのを、お助けセンターが紹介する労働力によって、産地支援につながっていければと考えております。

(D委員)

なかなか阿南から木頭の奥までというのは大変ですね、通勤時間が。

今、もう終わりましたが阿波晩茶の収穫、この時にやっぱり皆さんなかなか人手が少ないので、こっちの人が終わったら期間ずらしてこっちに来てねとか、そんな話を聞いたことがあります。期間内でというとなかなか。晩茶の収穫も早いでしょう、昔に比べて。雨が降ろうが、何が降ろうがやりますけど。その時期に持ってる方はこの時期に収穫してほしいと思っても、ここもここもやってるから、これがだいたい一応終わった頃という話も聞いてます。なかなか難しいというか、人に来てもらうのって、素人では出来

ませんし、大変だろうなという話は聞きましたけど。だから、近辺でやろうと思ったら年々高齢化するので。雇いづらいということもあるので、阿南市の方に来てもらうのも大変だろうなと思います、毎日出勤するの。

(産業交流部農業支援担当次長)

関連して補足させていただきます。

当然求職者の方は一年間を通じて仕事があればいいということで、出来るだけ我々も事務局と相談しながら年間通じて仕事があるよう、AさんならAさんに、順番に、期間、一年間を通じて仕事が、この事業を通じて出せるよう工夫しているところです。

雇用期間は実績を見ますと、だいたい2～3ヶ月が一番多く、次に1～2ヶ月というところで、比較的短期間なんで。農繁期ということですね。それを品目を変えて御紹介することで1年間を通じて仕事、就労できることを目指していきたいと思います。

それから今、御意見ございましたように、受け入れの農家の方々にも研修会を企画しておりまして、来月の11月の初旬になりますが、社会保険労務士を講師に昨年も実施しているんですけど、受け入れる側の法律的知識とか、労災事故とかいろいろあるので、気をつけて雇用していただきたいというようなことも、そういう研修会を計画してございます。

(D委員)

どの業種にしても人づくりというのがものすごい難しい。時間もかかるしお金もかかるんですけど、そこをやらないとなかなか前に進まないと思うので。林業はどうしても搬出なら搬出という一箇所だけ見てるんでなくて、全体を見ないと持続可能な林業経営が出来なくなると思うので、その辺のことも加味していろいろ横のつながりや縦のつながりをやってもらわないと、山っていうのは維持できていけないので、その辺の所をよろしく願いできたらと思います。

(部会長)

人づくりお願いします、という感じですね。

(A委員)

施策の中で「人づくり」というと県内っていう言葉がよく入るんですよ。

今回の評価の26年度をまず見て、どう27年度に移行したのか分かりづらかったんで、あちこち見て頑張ってみたんですけど、書き方も変わってきているし、場所も変わってきているんで見せてもらったんですけど、今の人づくりのことから言いますと、実は移住っていうのがものすごい大きなキーワードになってきてて、移住フェアに全部行っているんですけど、農業、林業、漁業、ものすごい人気なんですよ。で、出来そうも無いお兄ちゃんが前に座って、漁業、農業、林業したい、っていうんですよ。その受け手、受け皿はあるのに、そこから先の定住ということになるとやっぱり空き家とか、その生活のお世話する人がおらんから、逃げられるんちがうかなあ思っ

で、林業が一番すごいですね、就職するまでのシステムが出来ているのが。で、農業と漁業がこれが出来てないんですよ。だから、林業は来られても来て下さいと言える、私としては、美波町は漁業しかないでしょう、後継者育てるのは。それでもそのシステムは出来てないし。そしたら那賀町行ってくださいってお送りしてるんですよ、今。美波町に来られた方に。農業したいって言われたら、加茂谷ありますよ、三好ありますよって振り分けているんですよ。でも、そこから先やっぱりね、行っていただいても受け手がしっかりしていただかないと、こんだけたくさん、やりたいって来てるのに、漏らしているなど、すごい残念です。

(D 委員)

そこに定着してくれるような、っていうか。

(A 委員)

だからバラバラになってるから。施策が縦割りやからね。全部に移住して人が増えてくれたらいいのに、ちょっとバラついてる感があります。

(D 委員)

窓口が違うでしょう。

(A 委員)

来てくれたらその後の生活は誰がみてるのか、とかなったら、窓口がまた違うとか。

とっても残念だなと今思ってます。

林業はすごい言いやすいですね。山武者言えるし、あそこ行って下さいって言えるのがあるんだけど。

農業は昨日から資料一生懸命見て、きゅうりが出たから、はっきり言えるんです。650万以上1000万とれるって言えば食いついてきますからね、都会の若い人。

漁業はそれが無いんですよ。今、出てきてない。弱いですね。

漁業はすごくやりたい人多いんですよ。なんか、マッチングしてないですね。後継者不足と。したい人がたくさんいるのに。

(部会長)

うまいことできてない。

(局長)

農業はきゅうりの促成栽培でこれから人を呼んで来て、仕事と一緒にね、年収1千万円目指しましょうって。8人ぐらい新規就農者ができてるんですけど。

山武者とか林業も、いろいろやってくれてるんですけど、確かに漁業はなかなか、システムというか。

(A 委員)

徳島県ってけっこう海のイメージが強いんで、もうちょっと山武者っぽい

ものがあれば。ほんまに後継者不足って言ってるのかと思いますね、今日のニュースで流れてましたけど。

(局長)

私の感覚で、漁業は漁協がすごいいっぱいあるでしょう、統一できてなくて。統一するのが難しいのかな、と。

伊座利がちょっと独自で移住施策をやってて、あそこは成功しかけているかなという感じがしますけど。

なかなか県に来ていただいて、漁業を紹介するルールというか、システムみたいなのは弱いかなと。

(A 委員)

ほんとに後継者不足と言っているのに。儲けは普通のサラリーマンよりいいですよ。魚、捕れないと言っているけども儲けてるんですよ。

漁業したいって座る人いっぱいいるのに、流せないのがすごくつらい。

(C 委員)

大きな問題ですよ。

自分の生活で精一杯違うの。

(A 委員)

全然違うよ。

(B 委員)

7ページのプラン43のところ、移住交流支援センターっていうのは、どこまでの働きをされてますか。最後の説明も読んでるんですけど。80ページの。家が空いているっていうだけのものなんですか。

(経営企画部長)

市町村に移住交流支援センターを設置していただいているんです。阿南市は今まで無かったのがこの3月末に出来ました。ここが基本的に移住を考える方のワンストップサービスになっていただくというのが建前なんですけども、実際のところ役場にいろんな情報、たとえば住居の情報についてもあるのかというと、現実には無いと思います。移住者を受け入れていくためには居職住の世話がある。居っていうのはコミュニティの居場所をどう確保、世話してあげるか、居場所論みたいな。

職は、当然仕事っていう形で。住居、これも2万円とか4万円ぐらいで、手頃な値段で借りれる物件を提供できるか。これをどういう風に提供していくか課題だと思ってるんです。

市や町のところで出来ればいいんですが、現実やっぱり旧の小学校区単位ぐらいのコミュニティとか地域できちっと受入れ体制を作っていないと、なかかなほんと進んで行かないなど。空き家を一つ提供していただくにしても、もう売ってしまいたいという物件は後腐れもなく買ってくれるなら渡すというのはあると思うんですが、じゃあ貸します、貸してくれませんかかってなると、片付けから、あとあと変な人が入ってもめても困るとか。そこを乗

り超えていくためには、地域の単位でやっていただくというのが必要だと。

我々としては市町の方に旧の小学校区単位ぐらいで移住コーディネーター的な人を置いていただけませんか。例えば、加茂谷なら加茂谷で元気なまちづくり会からのメンバーを誰かとか。そういうのをきちっと作っていきたいなという風に思っています。行政的に役場の中に置きましたよだけではうまくいかない。県レベルで窓口作っても地域のことはまるで分からない。たぶん機能しないと思います。それがやっぱり移住を進めて行くには大事ななと認識しております。

(B 委員)

別件になりますが、5ページの、道路のことについてお伺いしたいと思います。

要所要所に高速道路について記載があり、わくわくしていますが、一方でいつになったら開通するのかとも考えてしまいます。実は私は、11月14日に牟岐町で開催される「四国は一つ8の字未知フォーラム」の委員なのですが、そのフォーラムの大きなテーマが、高速道路の早期完成です。一日でも早い開通を願っています。

プラン27の成果指標の三番目、工事中で丸の評価となっておりますが、これは加茂町で行われている工事のことだと思います。63ページにこの成果指標の過去の実績が記載されておりますが、平成23年度の用地買収中のあと、平成24年度からはずっと工事中です。あそこはわりと短い距離だと思うのですが、いつ頃完成するのでしょうか。

移住を希望される方が、加茂谷を見に来られた後、鷺敷の方に足を伸ばそうとしたとき、抜ける道がたいへん狭いのは、問題だと思いますので。

(県土整備部長)

プラン27を策定した平成23年度当時の計画では、26年度中の供用を目標としていました。この工区には、黒河の100m余りの長さのある橋が含まれているのですが、26年度中に本体工事はほぼ完了し、現在、取り合いの道路の工事を行っているところで、残っているのは舗装工事だけであり、近く開通の運びとなる見込みです。

地域の方には色々な面で御協力を賜らなければならないこともあるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(D 委員)

全体なんですけど。昨日、山に入ったんですけど、それを見ててですね、皆さん、獣道って御存じだと思いますが、獣道って、あるところが中心に二つ三つ分かれている。これではなくちゃいけないという選ぶところがあって、大きいところも大丈夫ですよ、小さいところも大丈夫ですよっていう風な、棒をとっていただいたらいいのになあって、いつも思うんです。獣は生か死か、いったん犬に追いかけられたらどこで振り切るか、振り切らないと自分の命が危ないから、それでここを起点としたら、ぱっと二つ三つに分かれるんです。そしてまた、起点としてぱぱっと分かれるんです。

徳島県も大きいところも小っちゃいところもいけるような、そういう風な

施策をお願いしたいと常に思います。昔と違って気象状況とかいろいろな状況も変わってきてますので、生産も大切ですけど、環境面もこれからどんどん言われてくるのでトータル、まとめて林業が盛んになるような、そういう風なことを盛り込んでいただきたいと思います。

(部会長)

大きな事業体もありますが、小規模の事業体も、いろいろ全体をといいますか。

いかがでしょうか。少し時間としてはまだ余裕があるのですが、そろそろいい時間になってきております。

(C委員)

定住自立圏って、阿南から美波町だったんですよね。今度、海陽町と牟岐が入って。

那賀町って入ってましたっけ。

(経営企画部長)

入ってます。

(C委員)

全町ですか。

(経営企画部長)

県南は全町です。全市町が一つの定住自立圏に今度なるということです。今、阿南市中心の那賀町と美波町の構成体なんですけど、新たに海陽と牟岐町が加わるという形になってます。

(C委員)

あとAMAってあるじゃないですか。阿南、室戸、安芸。あれ美波町が間に入っているですけど、なんかネーミングが悪いんじゃないかと。それでイマイチ広がらんのじゃないかと。

池田、三好のほうに行くと、にし阿波観光圏って外国人も多いし。AMAのせいでポイントがおかしいんじゃないかと思ったり。名前が悪いんじゃないかな。

空港があったり、いろんなルートがあるとは思いますが。

(B委員)

なぜ、皆西へ行くんでしょうかね。

(C委員)

やっぱり高松から、こう行って。

(B委員)

徳島空港に降りても、みな西に行くね。

(C 委員)  
そうですね。

(B 委員)  
道，道ですか。  
友達も皆，祖谷の方に行きたいって言って。こっち来たいって言わんのですよね。

(A 委員)  
名前がせっかく出たので言わせてもらうんですけど，ネーミング付けられる時は，是非，是非，最初気をつけていただきたい思います。そうしないと，後々直すのが大変だし，お金をものすごい注ぎ込んでいくんで，色々今，事業でロゴマークのこととか，名前付けられてるのを，どう活用しようかで苦労してるんですけど。

実は，またこれも移住フェアですごいショックだったんですけど，阿波ってどこか分からんのですよ。すごくつらい。びっくりでしょう。阿波がどこか分からんのですよ，皆さん。

(C 委員)  
千葉もあるしね。

(A 委員)  
阿波踊りで有名と思っても違うんですよ。東京行ったら，阿波踊りっていったら，高円寺だって言うんですよ。腹が立って，腹が立って。

(部会長)  
最近そうですよ。徐々に本家が高円寺になりそうですよ。

(A 委員)  
私もうっかり，県内でじっとしてるんで。阿波っていったら，徳島って分かってくれると思って暢気にしてたんですけど，全然分かってくれなくて，すごくつらいです。

(局長)  
そういう意味では，南部圏域は「四国の右下」って売り出しているのだから分かりやすいんじゃないですか。「四国の右下みぎあがり」って言ってますけどね。

(D 委員)  
個人的には好きくないんです。初めから好きで無いんですよ。

(B 委員)  
下っていうのが嫌なんですよ。

(局長)

それで「四国の右下みぎあがり」って言うてるんですけどね。  
たしかに難しいですね。

(A 委員)

ネーミングね，すごい大事やから。

(D 委員)

この間，ノーベル医学・生理学賞もらった先生が，ポケットにいろんな土を，行った先々で土を。それから，実験から得た物で失明を少なくして生存率を多くした。ノーベル賞もらった先生が，どこそこの土，ゴルフ場の土，いろんな土を採取して帰ってきてる。そこで，この何に効く土があったということは，ものすごく地下でいい微生物が動いていると思うんです。いい微生物が動くように，山も，たぶん農家の土壌もそうなんだと思うんですが，山づくりみたいなのを，未来の次の世代に託すために，そういう風な施策も私はいるんでないかなと思います。

一番根本はどういう風にしたら良くなるか，考えていただければと思うんです。

(部会長)

予定の時間より少し早めでございますけども，この辺で意見交換を終了したいと思います

委員の皆様からは色々のご意見やご質問をいただきましたけれども，本日，県から提出のありました『平成26年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価』（案）として示されているものを，当部会の評価としてよろしいですか。

(各委員)

(異議無し)

(部会長)

ありがとうございます。

それでは，評価ABCにつきましては，事務局の案をそのまま今回の評価とすることとしたいと思います。

南部総合県民局には，委員の皆さんからいただきましたご意見やご提言を，先日策定された『徳島県南部圏域振興計画』をはじめ，南部総合県民局の施策，事業にできる限り反映していただくようお願いいたします。

本日は，委員の皆さんには，幅広いご意見やご提言をいただきありがとうございました。

なお，最後に当部会の会議録に関しまして，お諮りしたいことがございますので事務局から説明を願います。

(事務局)

事務局より説明させていただきます。本計画推進評価部会の会議録の公表内容につきましては，部会長と協議の上，後日，公表させていただきたいと考えておりますが，いかがでしょうか。



(部会長)

以上、事務局から説明がありました。本日の会議録の公表内容については、部会長である私の判断により公表することとしてよろしいでしょうか。

(各委員)

(異議無し)

(部会長)

ありがとうございます。

それでは異議もないようですので、部会長の判断により公表させていただきます。

それでは事務局にお返しいたします。

(事務局)

それでは長時間、ありがとうございました。

以上をもちまして徳島県南部地域政策総合会議計画推進評価部会を閉会させていただきます。

本日は、大変ありがとうございました。